

(職員用)

学校評価アンケート

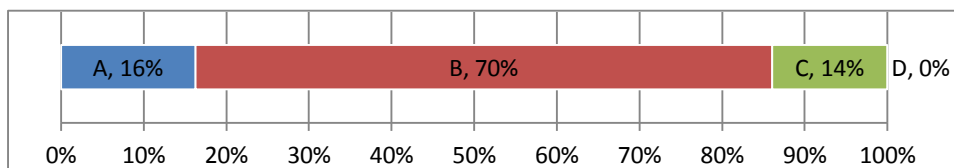
※ A：大いにそう思う B：だいたいそう思う C：ふつう D：あまりそう思わない E：まったくそう思わない

1 豊かな言語力・社会性の育成

(1) 言語力・コミュニケーション能力の向上

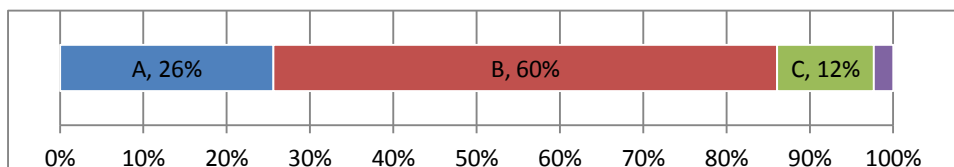
獲得している言語力と、もっている可能性から、個に応じた課題が設定され、適切な指導がなされていた。

1



人間関係づくりや、社会性などにつながるコミュニケーションの力を伸ばす指導がなされていた。

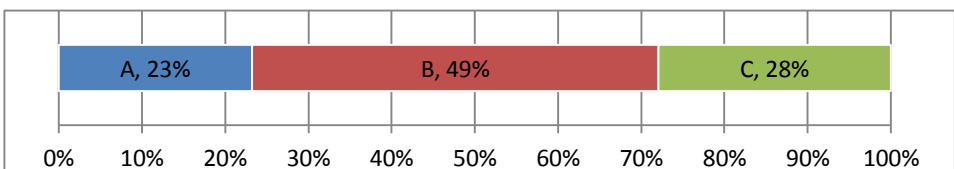
2



(2) キャリア教育の充実

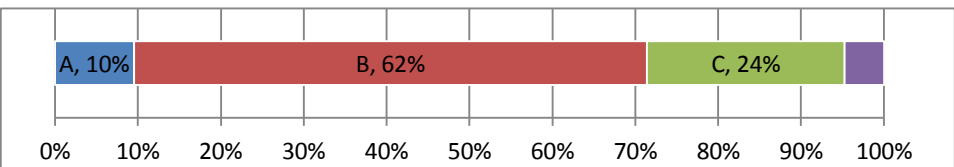
自身の障がいを理解しつつ、自己肯定感を高め、意欲や目標をもって周囲と関わっていくための支援がなされていた。

3



社会との関わりの中で自己決定できたり、問題解決できたりする力を育てる支援がなされていた。

4

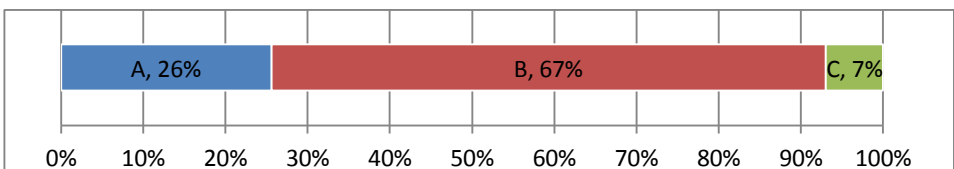


2 教科指導の充実

(1) 日々の授業の教材、教具などの工夫と充実

教材を工夫し、実態把握を基に分かる授業づくりがなされていた。

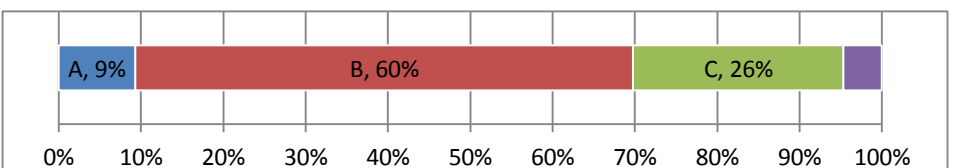
5



(2) 授業力向上のための授業研究の充実

子どもたちは、課題解決の目当てをもって学習に取り組み、思考力を高めていくことができていた。

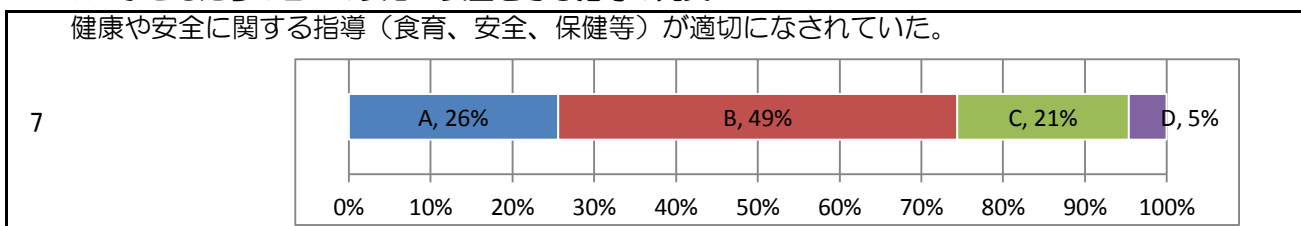
6



3 安全と健康管理

☆ 子どもたちの日々の安心・安全を守る指導の充実

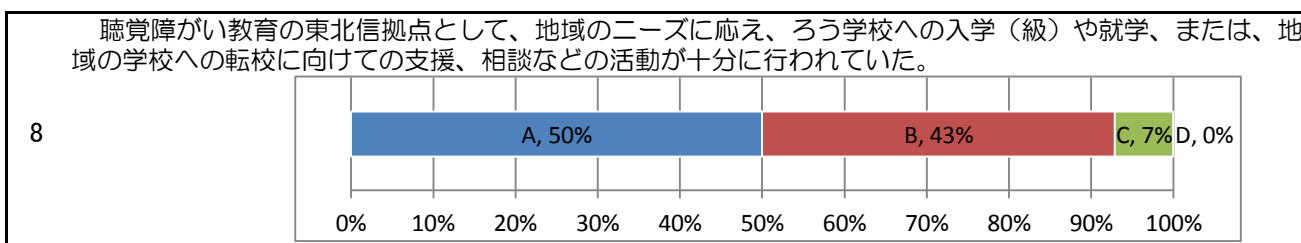
健康や安全に関する指導（食育、安全、保健等）が適切になされていた。



4 相談・支援機能の充実

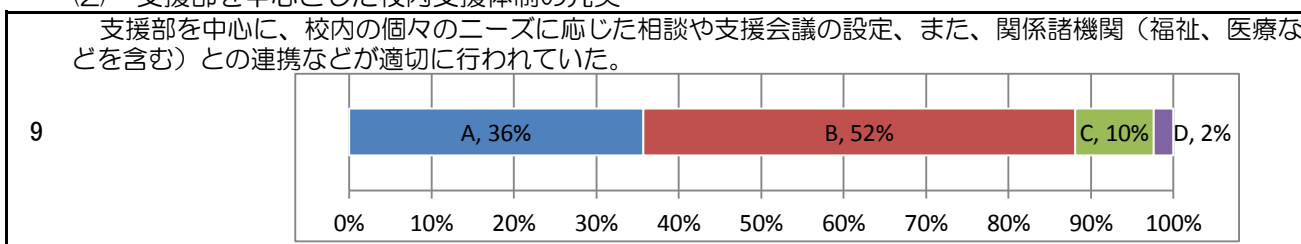
(1) 教育相談・通級指導教室・きこえの教室などの充実

聴覚障がい教育の東北拠点として、地域のニーズに応え、ろう学校への入学（級）や就学、または、地域の学校への転校に向けての支援、相談などの活動が十分に行われていた。



(2) 支援部を中心とした校内支援体制の充実

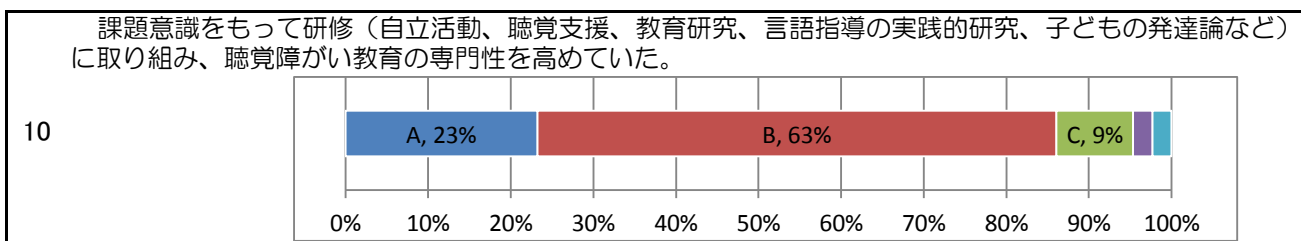
支援部を中心に、校内の個々のニーズに応じた相談や支援会議の設定、また、関係諸機関（福祉、医療などを含む）との連携などが適切に行われていた。



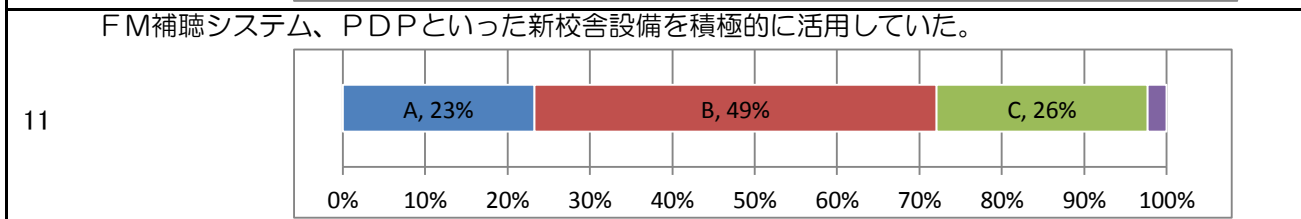
5 職員の連携による指導力・支援力などの向上

(1) 教職員の力量、チーム力などの向上

課題意識をもって研修（自立活動、聴覚支援、教育研究、言語指導の実践的研究、子どもの発達論など）に取り組み、聴覚障がい教育の専門性を高めていた。



FM補聴システム、PDPといった新校舎設備を積極的に活用していた。



幼稚部から高等部までの一貫校のよさを生かし、各部職員が連携を図り、学校教育目標具現のために取り組んでいた。

